

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **10072308 A**

(43) Date of publication of application: **17 . 03 . 98**

(51) Int. Cl

A61K 7/00
A61K 7/02
A61K 7/025
A61K 7/027
A61K 7/032
A61K 7/48

(21) Application number: **08245728**

(22) Date of filing: **28 . 08 . 96**

(71) Applicant: **KOSE CORP**

(72) Inventor: **NISHIMURA MIZUHO
NAKABAYASHI JIRO
MOMOSE SHIGESADA**

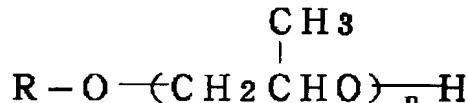
(54) OILY SOLID COSMETIC

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain an oily solid cosmetic excellent in gloss of cosmetic film, usability, finish, durability of make-up and high-temperature durability, comprising a specific alkyl ether or it and a prescribed liquid oil.

SOLUTION: This oily solid cosmetic comprises a polyoxypropylene alkyl ether of the formula (R is a 1-15C alkyl; (n) is 15-75) or it and a liquid oil having ≤ 0.2 IOB value (e.g. diglyceryl triiso stearate, glyceryl trioctanoate, etc.). The amount of the polyoxypropylene alkyl ether blended is preferably 1-20wt%. The blending ratio of polyoxypropylene alkyl ether and the liquid oil having ≤ 0.2 IOB value is preferably 1/80 to 1/1.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-72308

(43)公開日 平成10年(1998)3月17日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K	7/00		A 6 1 K	7/00
	7/02			J
	7/025			P
	7/027			
	7/032			

審査請求 未請求 請求項の数4 FD (全4頁) 最終頁に統く

(21)出願番号	特願平8-245728	(71)出願人	000145862 株式会社コーセー 東京都中央区日本橋3丁目6番2号
(22)出願日	平成8年(1996)8月28日	(72)発明者	西村 瑞穂 東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー 一研究所内
		(72)発明者	中林 治郎 東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー 一研究所内
		(72)発明者	百瀬 重穎 東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー 一研究所内

(54)【発明の名称】油性固型化粧料

(57)【要約】

【課題】油性固型化粧料において、化粧膜のツヤと化粧持ち、仕上がり、使用性、系の高温安定性を同時に満足することは難しく、その改善が望まれていた。

【解決手段】油性固型化粧料にポリオキシプロピレンアルキルエーテルを配合、更にはポリオキシプロピレンアルキルエーテルとIOB値が0.2以上の液体油とを配合する。

【特許請求の範囲】

【請求項1】ポリオキシプロピレンアルキルエーテルを配合することを特徴とする油性固型化粧料。

【請求項2】ポリオキシプロピレンアルキルエーテルとI O B 値が0. 2以上である液体油とを配合することを特徴とする油性固型化粧料。

【請求項3】ポリオキシプロピレンアルキルエーテルの配合量が1~20重量%である請求項1または請求項2記載の油性固型化粧料。

【請求項4】ポリオキシプロピレンアルキルエーテルとI O B 値が0. 2以上である液体油との配合比が、1/80~1/1であることを特徴とする請求項2または請求項3記載の油性固型化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、化粧膜のツヤ、使用性、仕上がり、化粧持ち、高温安定性に優れる油性固型化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、口紅、アイシャドウ、アイクリーム等の油性固型化粧料は、良好な化粧膜のツヤと化粧持ち、使用性さらに系の高温安定性を同時に満足することが難しく、特にツヤを出したい場合はグリセライドや、エステル系等の液体油を配合することによって対応されていたが、この方法では化粧持ちが悪く、また高温状態において化粧料表面に汗をかいたような状態（いわゆる“発汗”状態）になり易く、口紅ではにじみを生じやすいというような欠点を有していた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】したがって、良好なツヤ、使用性、仕上がりを有し、且つ化粧持ち、系の高温安定性を同時に満たす油性固型化粧料の開発が望まれていた。

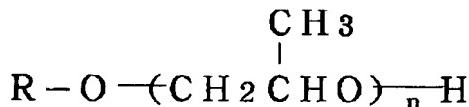
【0004】

【課題を解決するための手段】かかる実情において、本発明者らは鋭意研究を行った結果、ポリオキシプロピレンアルキルエーテルを配合した油性固型化粧料、更にはポリオキシプロピレンアルキルエーテルとI O B 値が0. 2以上の液体油とを配合した油性固型化粧料が、ツヤ、使用性、仕上がり、化粧持ち、および系の高温安定性に優れることを見いだし、本発明を完成するに至った。

【0005】本発明に使用されるポリオキシプロピレンアルキルエーテルは、次の化学式で表わされる常温で粘性のある液状、あるいは半固形状ものであれば特に制限はないが、例えば、ポリオキシプロピレンセチルエーテル、ポリオキシプロピレンブチルエーテル、ポリオキシプロピレンラウリルエーテル等が挙げられ、市販品としてはユニループMB 370、同MB 700（日本油脂）等がある。

【0006】

【化1】



【0007】(式中、Rは炭素数1~15のアルキル基、nは15~75の整数。)

【0008】これらのポリオキシプロピレンアルキルエーテルは、必要に応じて一種又は二種以上を用いることができる。本発明のポリオキシプロピレンアルキルエーテルは、本発明の油性固型化粧料中に1~20重量%（以下、単に「%」で示す。）の範囲で配合される。その範囲内であれば、特に良好なツヤと化粧持ち、高温安定性が得られる。

【0009】また、本発明に用いられるI O B 値0. 2以上の液体油としては、例えば、トリイソステアリン酸ジグリセリル、トリオクタン酸グリセリル、トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル、ジカプリン酸プロピレングリコール、オレイルアルコール、ヒマシ油等が挙げられ、必要に応じて一種又は二種以上を用いることができる。

【0010】更に、本発明の油性固型化粧料においては、上記ポリオキシプロピレンアルキルエーテルとI O B 値0. 2以上の液体油との配合比が、1/80~1/1の範囲にあればツヤ、使用性、仕上がり、化粧持ち、高温安定性が顕著でありより好ましい。

【0011】本発明の油性固型化粧料には、上記成分の他、油性固型化粧料とするための油性基剤が配合される。油性基剤としては、通常用いられる固体、半固体及び液体油等、特に制限はなく、動物油、植物油、鉱物油、合成油を問わず炭化水素類、ロウ類、エステル類、脂肪酸類、高級アルコール類、シリコーン油類、フッ素系油、界面活性剤等が挙げられる。例えば、ポリブテン、ワセリン、パラフィンワックス、セレンシワックス、マイクロクリスチルワックス、合成炭化水素ワックス、モクロウ、ミツロウ、カルナウバロウ、キャンデリラロウ、ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、メチルハイドロジェンポリシロキサン、三次元架橋構造を有するジメチルポリシロキサン重合物等を使用することができ、必要に応じて一種又は二種以上を用い、製品形態により適宜選択される。

【0012】更に、本発明の油性固型化粧料には、ポリオキシプロピレンアルキルエーテル、I O B 値0. 2以上の液体油、及び上記油性基剤の他、本発明の効果を損なわない範囲で、化粧料に一般的に使用される粉体、色素、酸化防止剤、高分子化合物、香料、防腐剤、紫外線吸収剤、保湿剤、美容成分等を配合することができる。

【0013】

【発明の実施の形態】本発明の油性固型化粧料は、特に用途の限定はないが、好ましくは皮膚用、例えば口紅、アイシャドウ、アイクリーム等に適用される。本発明の油性固型化粧料は、実質的に水を含まない系であれば、効果の発現が顕著でありより好ましい。

【0014】

*

* 【実施例】以下、実施例により本発明を更に詳細に説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。
実施例1～2及び比較例1～3 <スティックタイプ
口紅>

【0015】

【表1】

成 分 (%)	実施例		比較例		
	1	2	1	2	3
(1) 合成炭化水素ワックス	10	10	10	10	10
(2) キヤンデリラロウ	10	10	10	10	10
(3) パラフィンワックス	10	10	10	10	10
(4) ラノリン	10	10	10	10	10
(5) オリキシップロビレン(52)アクリルエーテル	10	—	—	10	—
(6) オリキシップロビレン(40)アクリルエーテル	—	10	—	—	—
+ オリキシエチレンボリオキシプロビレン ラクリルエーテル	—	—	—	—	10
(7) トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル	20	20	20	—	20
(8) 流動パラフィン	20	20	30	40	20
(10) 順料	10	10	10	10	10
評 値					
a) 化粧膜のツヤ	◎	◎	△	△	△
b) のびの軽さ(使用性)	○	○	○	○	△
c) 化粧膜の均一性(仕上がり)	◎	○	△	△	△
d) にじみにくさ(化粧持ち)	◎	○	△	×	○
e) 色持ちの良さ(化粧持ち)	○	○	×	×	△
f) 色移りのしにくさ(化粧持ち)	◎	○	△	×	△
g) 系の高温安定性	◎	◎	×	×	△

【0016】(製法) 成分(1)～(9)を110℃～120℃に加熱溶解した後(10)を加え均一に混合し、成型用の型に流し込み、冷却固化して口紅を製造した。

【0017】実施例1～2、及び比較例1～3について、化粧膜のツヤ、使用性(のびの軽さ)、仕上がり(化粧膜の均一性)、化粧持ち(にじみにくさ、色持ちの良さ、色移りのしにくさ)、系の高温安定性を評価した。その結果も併せて表1に示す。

(試験方法及び評価方法)

a) 化粧膜のツヤ

各試料を唇に塗布し、化粧膜のツヤを目視評価した。

b) のびの軽さ(使用性)

各試料を唇に塗布する際ののびの軽さを評価した。

c) 化粧膜の均一性(仕上がり)

各試料を唇に塗布し、化粧膜の均一性を評価した。

d) にじみにくさ(化粧持ち)

各試料を唇に塗布し、パネルに通常の生活をしてもらい、2時間後ににじみのなさを評価した。

e) 色持ちの良さ(化粧持ち)

各試料を唇に塗布し、パネルに通常の生活をしてもらい、半日後の色持ちを評価した。

f) 色移りのしにくさ(化粧持ち)

各試料を唇に塗布し、パネルに通常の生活をしてもらい、2時間後にティッシュペーパーで唇をおさえて口紅

の色移りのしにくさを評価した。

g) 系の高温安定性

各試料を50℃の恒温槽に1時間放置後、試料表面の発汗状態を目視評価した。

【0018】各評価項目について、10名の官能検査パネルにより下記の7段階(0～6)の絶対評価を行い、更にその平均点を4段階に分けて評価した。

(1) 絶対評価

6：非常に良い

5：良い

4：やや良い

3：普通

2：やや悪い

1：悪い

0：非常に悪い

(2) 4段階評価

5点以上：◎

4点以上5点未満：○

3点以上4点未満：△

3点未満：×

【0019】表1の結果から明らかなように、本発明の口紅は、比較例の口紅に比べて、化粧持ち及び高温安定性に優れ、且つ化粧膜のツヤ、使用性、仕上がりの全てにおいて優れたものであった。

【0020】

実施例3：皿流し込みタイプ口紅

(成分)	(%)
1. マイクロクリスタリンワックス	5. 0
2. ポリエチレンワックス	5. 0
3. トリイソステアリン酸ジグリセリル	39. 49
4. ポリブテン	30. 0
5. ポリオキシプロピレンラウリルエーテル	15. 0
6. 顔料	5. 0
7. 保湿剤	0. 5
8. 香料	0. 01

【0021】(製法) 成分1～5を110℃～120℃に加熱した後、6～8を加えて混合し、金皿に流し込み、冷却固化して皿流し込みタイプの口紅を得た。本発明の皿流し込みタイプの口紅は、化粧膜のツヤ、使用性、仕上がり、化粧持ち、系の高温安定性を同時に満足することのできる優れたものであった。

【0022】実施例4：スティック状アイシャドウ

(成分)	(%)
1. マイクロクリスタリンワックス	8. 0
2. ワセリン	7. 0
3. 流動パラフィン	10. 0
4. ソルビタンセスキオレエート	1. 0
5. ポリオキシプロピレンブチルエーテル	2. 0
6. ヒマシ油	60. 8
7. パーフルオロポリエーテル	3. 0
8. マイカ (疎水化処理*)	3. 0 *

* 9. 雲母チタン (疎水化処理*)	2. 0
10. 赤色202号 (疎水化処理*)	1. 0
11. 群青 (疎水化処理*)	2. 0
12. 保湿剤	0. 1
13. 香料	0. 1

* メチルハイドロジェンポリシロキサン処理

【0023】(製法) 成分1～6を加熱溶解した後、7～13を加えて混合し、繰り出し容器に流し込み、冷却固化してスティック状アイシャドウを得た。本発明のスティック状アイシャドウは、化粧膜のツヤ、使用性、仕上がり、化粧持ち、系の高温安定性に優れたものであった。

【0024】

【発明の効果】本発明の油性固型化粧料は、化粧膜のツヤ、使用感及び仕上がりが良好であるとともに、化粧持ち、系の高温安定性に優れた化粧料である。

フロントページの続き

(51) Int. Cl. 6

A 61 K 7/48

識別記号 庁内整理番号

F I

A 61 K 7/48

技術表示箇所